





## 教育の現場から

## 性の多様性の中で生きる私たち

前島 藍（川崎市教職員組合教文部長）

「LGBT」という言葉がメディア等で取り上げられ、よく耳にしたり目にしたりするようになってきました。言葉としては知っていてもよくわからない、セクシュアル・マイノリティは、身近にいないと思っている人が多いのではないのでしょうか。様々な調査によると、13人に1人はセクシュアル・マイノリティであるとされています。身近にいないと思っているだけで、マイノリティを隠しながら生活している友人や家族がいるはずなのです。もしくは、自分自身が気づいていないだけなのです。マイノリティであることをカミングアウトすることが難しい世の中であることが問題なのではないのでしょうか。この問題を解決するためにできることは、いったい何なのでしょう。

## 1. 川崎市子どもの権利条例

川崎市には全国に先駆けて、「川崎市子どもの権利に関する条例」が制定されました。その中で、第11条「ありのままの自分である権利」(1)は、個性や他の者との違いが認められ、人格が尊重されること、また第16条「個別の必要に応じて支援を受ける権利」(1)は、子ども又はその家族の国籍、民族、性別、言語、宗教、出身、財産、障害その他の置かれている状況を原因又は理由とした差別及び不利益を受けないこととしています。

これまで教育の現場では、子どもたち一人ひとりの人権を大切にしてきました。しかし、本当に一人ひとりを尊重できていたのでしょうか。

## 2. 性別で分けられない名簿 100%

現在、市立小学校・中学校・特別支援学校では「性別で分けられない名簿」実施率が2011年度より100%を維持しています。名簿以外では、男女を分けない並び方や、男女とも「さん」づけて呼ぶこと、体育着を男女共通のデザインにするなど、これまでいろいろな慣習が見直されてきました。しかし、今まですり込まれてきたジェンダー意識をそのまま子どもたちに伝え、「ジェンダーの再生産」を行っていることがあります。子どもたちにとって本当に必要な区別なのか、自分たち大人がわかりやすいための便宜的な区別なのか、「区別は差別につながる」という意識をもっていかなくてはなりません。

## 3. 教室の中で

13人に1人はセクシュアル・マイノリティであるのであれば、40人学級の中に3~4人はいるということになります。これまで「持って生まれた性に違和感を感じているのかな？」と思う子どもたちとも関わってきました。中学校の標準服、宿泊を



講演「性の多様性について」を熱心に聞く  
教職員と保護者たち

伴う行事、更衣室での着替え、トイレなど、困り感はあるとしても言い出せない子どもたちが多くいるはず。そして「女らしく」「男らしく」という大人の無意識の偏見によって、セクシュアル・マイノリティの子どもたちがいないことになってしまいます。「一人ひとり、みんな違う」という意識を忘れず、子どもたち一人ひとりに寄り添い、受容していくべきだと考えます。そして、セクシュアル・マイノリティの子どもたちの思いをどこまで受け入れられるか、学校内で話し合うことも必要です。そのために、今私たちがすべきことは「知る」ことなのではないでしょうか。

\*

学校で、家庭で、地域で子どもたちを見守る大人として、多様性を意識し、無意識の差別や偏見をなくすため、啓発活動を進めていかなくてはなりません。そして、幼少期から多様性を意識した教育を進めていくべきだと考えます。

他人事としてではなく、自分事としてとらえ、自分自身も多様性の中の一員であることを認識し、SOGI(ソジ)(sexual orientation + gender identity)の意識へ変えていく必要があります。そして、誰もが生きやすい、ありのままの自分になれる社会にするため、学習会などを進んで開催するなど、これからも行動していく必要があります。そのとりくみの一つとして、川崎市「母と女性教職員の会」では、NPO法人・LGBTの家族と友人をつなぐ会・東京理事の三輪美和子さんを講師にして講演会「性の多様性について」(上の写真、7月13日)を開きました。

## クローズアップ/川崎の市民活動⑧

### 市民の 市民による 市民のための 中間支援組織

#### NPO法人「はたらくらす」

今回訪問したNPO法人「はたらくらす」は、子育て中の若いお母さんたちのまちづくり集団である。フィールドは幸区の夢見ヶ崎動物公園を中心に、北加瀬、南加瀬地区一帯に同心円状に広がる地域である。

「はたらくらす」という言葉は、いくつかの意味を重ね合わせた合成語であることは想像できるが、では、何と何を掛け合わせたものか、分かるようでわからない。「はたらくらす」それとも「はたら・くらす」……。いずれも？マークで、しっくりこない。

同法人の代表・石渡裕美さんから、働く・暮らす・クラスを掛け合わせた言葉だと説明をうける。クラスには学ぶ、集いのニュアンスが込められている。3つの言葉にはいずれも「ら」音が入っていることに気づく。筆者の勝手な想像だが、「はたらくらす」のネーミングは音としての響き、また、さまざまな解釈や連想を許す自由な遊び感覚からきているのでは、と思ったがどうだろうか。まずはそんな印象をもち取材にのぞんだ。

#### 出発は自主保育の活動から

「はたらくらす」の活動は2009年、手づくりの自主保育を運営するところからはじまっている。グループ名は“まんまる”である。石渡さんには3人の子どもがいるが、当初は3家族からのスタートであった。“まんまる”の活動拠点は慶応大学K2タウンキャンパスに隣接する「さいわいふるさと公園」だが、ときには麻生区の黒川野外センターなどにも遠出する。

石渡さんは自主保育で大事にしていることを3つあげてくれた。1つは子どもの〈今〉を保障すること。子どもたちの〈今〉は、その先の小学校の予備のためではなく、「そのときしかできないことをする」ためにこそある、という考えであろう。2つは、自由と責任を学びとること。見せてもらった写真には、ありあわせの木々を巧みに活用してジャングルをつくったり、しゃがみ込んで虫をじっとみつめる子、小川に入る子、山道を駆け下りる子たちの姿があった。子どもたちは五感をフルに働かせながら、大人の思いつかない遊びを自在に発見していく。またお互い協力し合い、危険から身を護る術を身につけていく。責任感覚は親から教わるというより子ども自身が周囲の自然に働きかけ、返ってくる刺激を身体全体で受けとるプロセスの中で育てられていく。

「はたらくらす」のロゴマークはブナの樹がイメージされているが、大地にがっしり根をはり、自由と責任のバランス感覚をもった人間として育つこと、これが自主保育“まんまる”の願いである。

3つは、こうした子どもたちの姿を見守りながら、親たちも自分たちが暮らす地域でどのように根っこを築いていくべきか、考えはじめる。まちづくりは一人の力でできるものではない。子どもたちがありあわせの木々をもちよりジャングルを組み立てるように、お母さんたち



絵本『ゆめみがさきふしぎにヤトンネル』の原画を手にした「はたらくらす」代表の石渡裕美さん

もお互いの得意技や「やってみたい」という思いを掛け合わせながら、斬新的なアイデアや地域に隠されたお宝(価値)を発見していく。石渡さんはその効果、よろこびを足し算ではなく、掛け算にたとえて語ってくれた。

「はたらくらす」の発足は2017年11月で、まだ日が浅い。しかし、そのエネルギッシュな活動歴をみれば、自主保育の活動から得た経験が養分となって、着実に地域に根をはってきている。以下に、その一端をいくつかの事例で紹介したい。

#### 地域の歴史をたどる絵本づくり

1つは夢見ヶ崎動物公園のある加瀬山を舞台とした絵本(『ゆめみがさきふしぎにヤトンネル』)の制作である。石渡さんたちの提案で絵本制作委員会が立ち上がり、地元の出版社(まさ出版)と共同で企画・出版した(2018年度幸区提案型協働事業に採用)。

夢見ヶ崎公園の一角には高さ10m、長さ70mほどの濃い緑の樹木(カイツカイブキ/ひのき科)が密生してできたトンネルがある。薄暗いトンネルの中に入れば、螺旋状にのびる枝葉に囲まれ、一瞬、別次元の世界に投げ込まれたような錯覚に陥りそうになる。

物語は、この緑のトンネルを舞台に古老の猫の案内で加瀬山周辺の歴史が語られていく。過去への遡行は明治期、近代都市に変貌していく姿、江戸期、多摩川の豊かな水の恩恵をうけながら、他方暴れ川と闘ってきた時代、さらに遠く有力豪族が支配していた古代(加瀬山には当時の記憶をのこす古墳が7つある)、さらに遡り6000年前の縄文海進期まですすむ。その頃、加瀬山周辺は海に浮かぶ島であった。濃い緑のトンネルの静寂と古老の猫の静かな語り口が共振し合い、加瀬山周辺の土地の記憶が鮮やかに浮かびあがってくる。出版後、絵本の原画展や読み語りコンサートも開かれている。〈地域を知る〉とはどういうことか。想像力を働かせ、遠い時間の海の奥深いところから聞こえてくる声に耳を澄ますことから始まることを、この絵本は教えてくれる。

#### おやこの学び舎/サイエンスワークショップ

東芝科学館と協働してユニークな学び(放課後サイエンスワークショップ)がおこなわれている。その試みを「液体の探検」というワークショップを例に紹介してみる。

「液体」とは何か。辞書には「水や油のように、一定の体積を有するが、一定の形状をもたないもの」とある。大気や固体との違いが短い抽象的な文章で的確に説明されている。しかしここでは、液体という存在を知るために独特な方法がとられている。普通の水の他に塩水や砂糖水、さらにシャンプーや蜂蜜などを並べられ、それぞれの特徴を確かめ合う。ドロツとしたもの、サラサラした感触、掬ってもこぼれ落ちるもの、塩辛いもの、甘いもの等々、液体といっても

多様である。アメリカの体験学習プログラム手法が元になっている  
 そうだが(石渡さんと仲間の 2 人がその資格をもつ)、身体感覚を  
 全開させ、異なる形状、質をもったものから類似性や共通性を探り  
 ながら、液体とは何かを「知る」。まさに探検である。こうした手づくり  
 による、ときには外部講師を招き多分野のテーマで、大人と子ども  
 の学び舎が毎月 1 回開催されている。



サイエンスワークショップ  
 (おやこの学び舎)

その説明をう  
 けながら、「ロー  
 カルリッジ」のこ  
 とを連想した。農  
 民や漁民、職人  
 は、たとえ科学的  
 知識が不十分で  
 あっても、雲の動  
 き、風の変化、土  
 の湿り具合など現

場に即した経験知や勘で、自然の多様なかたちや変化する状況  
 を的確に予測する。「おやこの学び舎」での探究スタイルとローカル  
 リッジとは通じ合うものがあるように思える。現代科学技術が万能  
 でないことがみえてきた今日、もう一つの知であるローカルリッジ  
 の意義を知っておくことは重要である。

### 人が輝き、街が育つための橋渡し役

最後は多世代の出会いの場づくりである。2018 年にJRの社宅  
 群を再開発して「コトニアガーデン新川崎」がオープンした。コンセ  
 プトは、多世代が地域に溶けこむコミュニティづくりであり、集合住  
 宅の他に、保育園、高齢者施設、広場、菜園など複合施設が設け  
 られている。高齢者施設には周辺の住民が自由に出入りできる交  
 流スペースや多目的室もある。「はたらくらす」もこのコトニアのコン  
 セプトに共感し、これら施設を活用し、多彩な企画や事業を企画し  
 ている。

右欄の写真(上)は多目的室で実施したまちづくりワークショップ

の一コマである。参加者に「あなたがやってみよう」「そのため  
 に今必要なこと」「今後どうしていきたいか」を書いてもらい、一人ひ  
 どり発表。それがやがて「個人の成長→街の育ち」につながる貴重

なシーズになっ  
 ていく。下の写  
 真はコトニアのま  
 ち開きイベントで  
 披露したガーデ  
 ンダンスである。  
 誰でもすぐ覚えら  
 れ、コトニアで定  
 期的におこなわれ  
 る街フェスタで  
 は居合わせた  
 人たちも巻き込  
 み、会場一帯に  
 踊りの輪が広が  
 っていく。その他  
 「はたらくらす」は  
 コトニアの一角に



上=まちづくりワークショップ 下=ガーデ  
 ンダンス (コトニアガーデン新川崎にて)

ある喫茶店と提携し、「0、1、2 歳ママのおしゃべりカフェ」や、身近  
 な画材を使った「カフェでアート」も運営している。

\*

紹介したい活動は他にもあるが紙面がない。NPO はたらくらすの  
 コアメンバーは、代表の石渡さんをふくめ 9 名、その他に専門分野  
 のちがう助言者集団が 7 名いる。「はたらくらす」の目標について石  
 渡さんは、「こんなことしてみたい！」と思いつつ、それを実現する  
 には何か不足していると感じている個人や組織(市民団体、行政、  
 企業、商店会、個人事業者等々)の間に立ち、場づくりやシカ  
 ケづくりの橋渡しをすること、と語ってくれた。市民の、市民による、  
 市民のための中間相互支援のネットワークである。今後、その根が  
 どこまで広がっていくか、注目したい。(記:大矢野 修)

## 川崎自治研／活動日誌 2019 年 7 月～9 月

### 7 月

- 4 日 ヘイトスピーチを許さないかわさき市民ネッ  
 トワーク 市民集会
- 8 日 川崎教育文化研究所評議会
- 12 日 神奈川県地方自治研究センター研究会
- 12 日 外国人市民との共生社会をめざす神奈川  
 連絡会議学習会
- 13 日 第 57 回川崎市「母と女性教職員の会」  
 講演「性の多様性について」
- 17 日 川崎地方自治研究センター理事会
- 24 日 川崎地域連合提案事業 臨海部視察  
 事前見学
- 31 日 川崎地方自治研究センター総会

### 8 月

- 3 日 ヘイトスピーチを許さないかわさき市民ネッ

### トワーク 街宣行動

- 4 日 県職関連ブロック学習会
- 13 日 神奈川県地方自治研究センター 水野和夫教授  
 による学習会
- 14 日 ヘイトスピーチを許さないかわさき市民ネッ  
 トワーク 反ヘイト街宣行動
- 28 日 ヘイトスピーチを許さないかわさき市民ネッ  
 トワーク 事務局会議

### 9 月

- 7 日 川崎市職労 第 80 回定期大会
- 12 日 部落解放同盟関東甲地連 総会
- 16 日 さようなら原発全国集会
- 25 日 ヘイトスピーチを許さないかわさき市民ネッ  
 トワーク 市民集会
- 26 日 川崎地方自治研究センター総会





